



2030年を展望する

—求められる四次元企業への転身—

講演者

デザインフォーラム ビジネスデザインシリーズ 第9回

嶋本 正氏 株式会社 野村総合研究所 取締役会長

1954年 和歌山県生まれ

1976年 京都大学工学部情報工学科卒業後、

野村コンピュータシステムに入社、技術部に配属

1988年 同社と野村総合研究所の合併に伴い、NRI技術部に

1997年 産業システム部長、翌年システム技術部長

2001年 取締役(翌年から執行役員)就任、

情報技術本部長を6年間担当後、幅広く事業部門を担当

2010年 代表取締役社長に就任

2016年 社長を退任、取締役会長に専任



21世紀に入り、すでに15年が経過しました。15年前は、スマートフォンなど存在せず、やっと携帯電話を持ちはじめたころでした。また、アップルやグーグルも名前は知られてはいたものの、世界のマーケットで君臨することになるとは想像もつきませんでした。この15年間に、大きな変化がもたらされたことは言うまでもありません。

そしてこれからの15年間に、デジタル化の進展などにより、更なる大きな変化が起こることも確実です。15年後の2030年には、何が起こり、我々は何をしているのでしょうか。NRI(野村総合研究所)では、創立50周年の記念事業として、2030年プロジェクトを立ち上げて、「2030年の日本」をテーマに、社会、金融、産業、ICT、経営などに起こる変化について議論を行ってきました。その結果、15年後の企業に向かうべき方向は、「四次元企業」ともいうべきICTを駆使した新たな強みを持つ企業像ではないかとの考えにいたりました。

皆さんに、その検討内容を紹介し、2030年の社会、産業、ビジネス環境とその中における「四次元企業」像と一緒に展望できれば幸いです。

日時 6月30日(木) 17:30～ (19時頃から懇話会)

場所 京都大学デザインイノベーション拠点(KRP9号館 506)

<http://www.design.kyoto-u.ac.jp/access/>

対象 京都大学職員・学生、デザインイノベーションコンソーシアム会員、一部招待者

定員 40名程度

参加費 無料(懇話会 1000円)

主催 京都大学デザイン学大学院連携プログラム / デザインイノベーションコンソーシアム

運営 貫井 孝(京都大学デザイン学ユニット特任教授)

申込 <https://pro.form-mailer.jp/fms/ed29f56898709>

締切 2016年6月22日(水)

問合せ デザインイノベーションコンソーシアム事務局

京都リサーチパーク(株) 山口

メール: info@designinnovation.jp 電話: 075-315-8522